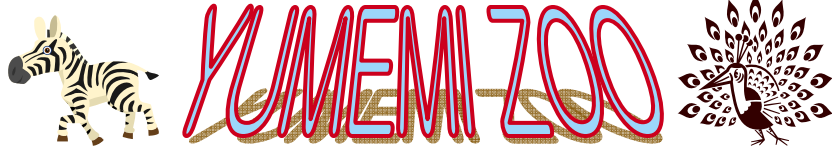


# ゆめみにゅーす



季刊 VOL. 31  
発行日 平成26年2月4日  
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園  
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:25種249点  
鳥類:26種117点  
爬虫類:10種42点  
(平成26年1月末日現在)

## キララ1歳になりました。

今年は午年(うまどし)。夢見ヶ崎動物公園の「ウマ」といえばハートマンヤマシマウマです。ということで、今年の年賀状コンクールはシマウマあての年賀状も多くいただきました。

昨年1月24日に産まれたキララ(♀)はだいぶ大きくなり、元気いっぱいです。そして、少々やんちゃな性格であることもだんだん明らかになってきました。

ウマの寝室とヒト用通路を隔てるために横3本並べた「ません棒」とよばれる金属製の太いパイプ、これらを固定する鋼の太いピンがあるのですが、ある日このピンを力任せに捻じ曲げてしまう事件が起きました。元に戻すのに力自慢の男性飼育員が渾身の力でバールを使って叩いてやっとこさでした。どうやって曲げたのかは分かりませんが、人間がいかに非力で、ウマの力がどれだけ恐ろしい

か痛感することになりました…。

なお、その後はません棒とピンにはいたずらできないように保護しているのご安心を!



↑ さて、おかしいのはどこでしょう

↓ 伏目がちですが、反省は人がするものなので、キララはおそらく反省していません



## レッサーパンダのこどもの愛称を考えていただきありがとうございました。



← だいぶ大きくなりました。

昨年7月1日生まれのレッサーパンダの子どもの愛称が、「ギンガ」に決まりました。たくさんのご応募ありがとうございました。

→ アン(下)は子育てがやっと一段落。お疲れさまでした。



## 第14回 春の動物園まつりのお知らせ

春の動物園まつりの詳細が決定しました。

★平成26年3月22日(土曜日)午前10時~午後3時  
★シマウマ餌やり体験、動物リレーガイド、バックヤードツアー、ふれあいコーナー、動物クイズコーナー、コンサートコーナー、竹細工体験などなど

雨天中止。当日は駐車場の使用はできません。  
詳しくはホームページ、市政だより等もご覧ください。



来てね~

# ★ピックアップ動物★

## アメリカアカリス

分類:哺乳綱 げっ歯目 リス科

北米の針葉樹林に生息し、樹上で暮らします。主に日中に活動しますが、食糧のなくなる冬に備え、秋には活動時間が長くなり、食糧集めに奔走します。集めた食糧は土に埋めて貯蔵し、冬に掘り出して食べます。また、秋冬は発情期でもあり、オスの精巣は大きくなって目立ち、気性が荒くなることもあります。当園にはオスのカンタロウ（好奇心旺盛）とメスのカトリーヌ（警戒心が強い）の2頭がいます。よく見ると違いが分かるかもしれませんよ。



↑ん?

→よく見ると、みかんがあります。通路のあちこちに餌を貯めて、あとで食べていました。



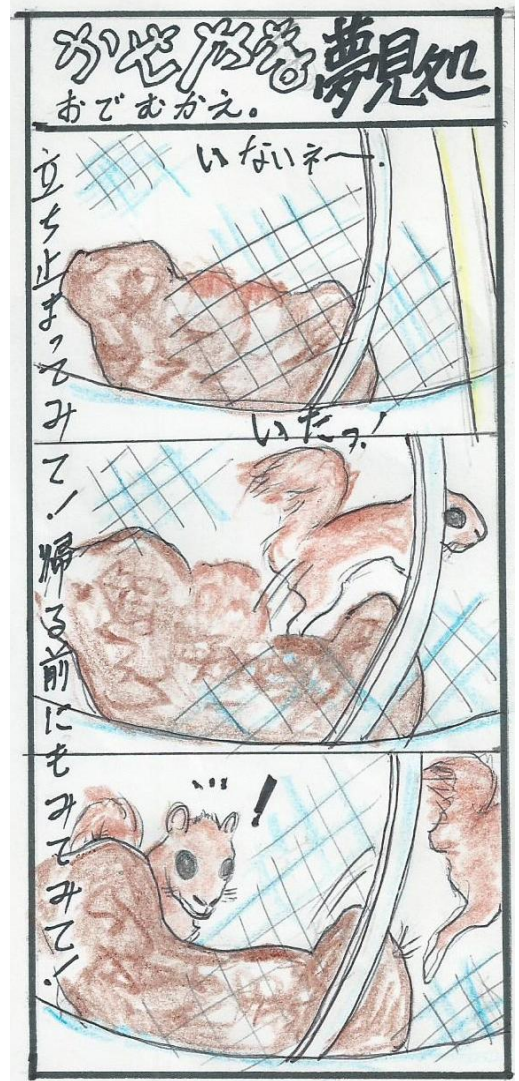
今年度も日本全国で色々な動物がヒトの生息地、つまり住宅街に出没するニュースを見聞きしたなあと感じています。

住宅街に適応していない動物種が入り込んでしまう原因の一つは、餌付けです。動物が餌を食べる姿はそれぞれ面白く、私も大好きです。動物園でそれが見

## 獣医の日記



られるのは飼育下という特殊な環境だからであり、野生動物に対して餌を与えるという行為は、本来の行動を変えてしまいかねません。さらに、例えばある植物があまり育たなかった年に、「この植物を食べる草食動物が死んでしまうのはかわいそう」と、餌を与えてしまったら、草食動物が増えすぎます。ヒトの命が一瞬に思えるような長期的な目で見ればちゃんとバランスをとっていた生態系を、「かわいそう」と、壊してしまうのです。ヒトの世界では個体の命が大事に扱われますが、自然においては動物種全体、さらには生態系全体が健康に存続し続けるために、個々の命は重くありません。草食動物も肉食動物も、生きるためには他の命を奪っています。言い換えれば、死んでも他の生き物を養い、自分たちが生きる地球を存続させるのです。ヒト以外にそんなことを考えている生き物はいないでしょう。しかし、当のヒトがそこから逸脱しつつあるのを感じます。原始的な生活をするべきとは思いませんが、生態系を無視したヒトの行動が地球にとって重大な脅威であり、生態系から完全にはみ出したらヒトという動物種もそう長く存続できないということを肝に銘じておかななくてはなるまい、と、年末年始もいつも通り動物たちのお世話をしながら思いにふけるのでした。



★動物たちの主な移動(平成25年11月1日～平成26年1月31日)★

フサホロホロチョウ(♂2死亡)、ヤギ(♂1死亡)、フサオマキザル(♂1死亡)、ホンシュウジカ(♂1死亡)、ミノキチャボ(♂1死亡)